

## Nalシンチレーション検出器を用いた エネルギースペクトル分析実験

らいおんチーム







Kyushu University



2022/9/2

## 1. 研究背景



0.0154 MeV 付近のピークの正体を解明すべく、 次のような実験を行った

2-1. 実験

<実験手順>

このピークが**Cs-137**による固有のピークであるか確認を行うため、異なる 標準試料のγ線スペクトルをNal型シンチレーション検出器を用いて測定した



Fig.2 (a) 測定の様子 (b)使用した線源

2-1. 実験



Fig.3 各線源の測定結果

2-1. 実験

〈異なる条件の実験〉

#### 以下の条件を変化させて実験を行った

(i) 測定時間

(ii)試料までの距離

(iii) 遮蔽材の有無

2-1. 実験

<(i)の結果>



あまり変化が見られなかった

2-1. 実験

## <(ii)の結果>

#### 試料と検出器までの距離 0cm, 10cm, 20cm



2-1. 実験

<(iii)の結果>

・試料と検出器の間に遮蔽物(鉄一枚)を挟み実験を行った



Fig.5 遮蔽材(鉄1枚)による影響

0 MeV 付近のエネルギーが見られなくなった

2-1. 実験

<考察>

・距離の変化では全吸収スペクトルと比較し、ピークの減少が小さい

・遮蔽物を挟んだ実験では、ピークが見えなくなった



## 0.0154MeV付近のピークは<mark>特性X線</mark>による スペクトルだと考えられる

2-2. 実験

## 同じ線源のはずなのに…

Cs-137のピーク位置や カウント数が 8/30とそれ以外で違う

検出器は変えていない はずなのになぜ?



Fig.6 測定日ごとのピーク位置

https://www.irasutoya.com

2-2. 実験

## 検出器の周りに マグネットを貼って実験

<実験1>

・マグネットの数を4つから8つに

増やして比較



• 4つのマグネットの<mark>貼る位置</mark>を 変えて比較



Fig.7 磁石を用いた測定の様子

2-2. 実験

実験1

- ・磁石の数による<mark>ピークエネルギー</mark> の変化
- ピークカウント数が磁石なしの時よりも高い

電子の向きが変わり 検出面に入射する**電子数**や エネルギーが変化したか?



Fig.7 磁石の数による影響

2-2. 実験

実験2

# ・線源から見て 検出器左側・右側とする



https://illustimage.com/?dl=5488

## 2-2. 実験

実験2



Fig.8 磁石の位置による影響

2-2. 実験

## 磁場がピークチャンネルへの影響を与えた

電子は磁界を通るとローレンツカがかかり向きが変 わる?



2-2. 実験

他にも…

PCのWindowsのアップデートが影響したか? (PCの負荷の変化により電流や電圧も変化?)







3. まとめ

・低エネルギー部分で見られたピークについて調べるため、測定距離や測定時間、遮蔽物の有無で実験を行った

・Cs-137のγ線測定を行ううちに見られたピーク位置のずれについて調べるために磁石を用いた実験を行った